

平成21年度第2回府中市子ども家庭支援センター運営協議会 議事録（要旨）

- 1 開催日時 平成22年1月15日（金）午後2時から4時まで
- 2 場 所 子ども家庭支援センター「たち」 ミーティングルーム
- 3 出席者 委員13人、代理1人、欠席1人
事務局（市）栢木主幹、遠藤課長補佐、鈴木主任、平澤、菊水
（法人）片岡センター長、畑山 （計21人）
- 4 欠席者 1人
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 次第（要旨）

（次第1 開会）

事務局

開会に先立ち、子ども家庭支援センター「たち」所長より挨拶があります。

所長

子ども家庭支援センターをとりまく状況は、児童福祉法の改正により要保護児童の対象に特定妊婦や要支援児童が加わり、また乳児家庭全戸訪問が法的に位置づけられるなど児童虐待の発生予防・早期発見・早期対応に力点が置かれ、また子育て支援者の養成や地域子育てひろばへの後押しなど子育てしやすい環境を整えるための事業も進められています。皆様の意見を子ども家庭支援センターの取組みに活かしていきたいのでご協議をお願いします。

事務局

出欠の状況の確認をします。〇〇委員が公務のため欠席です。また、本日の協議会は、出席者が有効定数の過半数を超えていますので、有効に成立していることをお知らせします。

本日の配付資料は、次第、資料1「席次表」、資料2「委員名簿」、資料3「平成20年度・平成21年度子ども家庭支援センター事業実績」、資料4「子育て支援ボランティア養成講座」、資料5「子育てひろば情報交換会」です。

（次第2 会議の傍聴について）

会長

平成21年度第2回府中市子ども家庭支援センター運営協議会を開催します。会議の傍聴について、事務局よりお願いします。

事務局

府中市附属機関等の会議の公開に関する規則により、1月11日号広報「ふちゅう」で募集をしたところ、応募はありませんでした。また、本日の資料及び議事録は、市のホームページと市政情報公開室で公開します。

（次第3 平成21年度子ども家庭支援センター事業報告及び平成22年度の取組みなどについて）

会長

事務局より「平成21年度事業報告」についてお願いします。

事務局

それでは、資料3「平成20年度・平成21年度子ども家庭支援センター事業実績」に基づきまして報告します。ひろば事業は、新型インフルエンザの影響で利用者の外出控えによる減少傾向が見られます。事業内容はボールプールを実施するなど利用者が楽しく過ごせる工夫をしました。カンガルータイムは、妊娠中の夫婦と幼児を対象にした子育て講座を実施しました。ベビーマッサージは、ボランティアも参加して実施しました。リフレッシュ保育は、1歳になったばかりのお子さんの利用が増加しています。ファミリーサポートセンター事業は、利用申込みは多いのですが、依然として提供会員が不足しています。親支援事業は、育児不安を抱えている母親が悩みや不安を話す中で自分なりの子育てを見つける手助けをする事業で、2つのグループがあります。保健センターから参加者の紹介を受けることもあります。相談は、減少傾向にあり、特に12月は「たち」開設以来始めて新規相談が0件でした。育児相談と養育困難の相談も減少傾向にありますが、保育課が行うポップコーン事業や地域の子育てひろばなどに相談先が移っていると考えています。

会長

意見や質問があればどうぞ。

委員

多摩児童相談所でも今年度の12月は府中市内の新規は1件と少なかったです。

副会長

親支援事業は保健センターから紹介を受ける場合もあるという話ですが、保健センターが行う事業との違いは何ですか。

委員

保健センターで行っている事業は発達に心配のあるお子さんを対象としたものと、子育てクラスとして1歳までの子が対象のものがあり、公会堂等で行います。「たち」で行う親支援事業には、特に育児不安が強い母を紹介しています。

副会長

連携ができていますね。

会長

資料3は平成20年度と平成21年度を比較しやすいように、データの時点を11月末に統一したほうがよいでしょう。

続いて「子育て支援ボランティア養成講座」についてお願いします。

事務局

資料4に基づき説明します。講座参加者は3日間で延べ69名でした。近隣にある大学やひろば実施者にも声かけをしました。参加者の大半がボランティアや子育てひろばの経験者でした。「ボランティアにしかできないこと」という講座では、イギリスで展開されている地域の子育て経験者が定期的に家庭を訪問し、母の話を聞くというボランティア活動「ホームスタート」事業を例にあげ、地域における子育て家庭支援システムについての話がありました。行政でなくボランティアというソフトなイメージでの活動のため、引きこもりがちな母や、虐待予防にも効果があり、母達の満足度は高く日本では現在4か所が実施し、今後13か所が実施予定のようです。ボランティア活動を支えるための組織や研修が重要ということでした。グループワークでは、受講者から「子育て支援がよくわかった」、「専門家や公的機関を拒否する家庭に受入れられるホームスタ

一ト事業に興味を持ったが、多くの難しさも感じた」、「コーディネーターの支えや協力が必要だと思った」、「日程は午前か午後のどちらかにしてほしい」などの感想をいただきました。今後は、子育てひろばでスタッフの確保が課題になっている実情もあるので、ひろばに派遣できるボランティアの養成や、経験者が新たなひろば開設に協力できるような講座など、目的別や初級者と経験者のクラス別の講座を開催する必要性を感じました。また養成した参加者をボランティア活動につなげるしくみ作りが必要と考えます。

会長

大学は、保育科がある大学を選ぶと良いと思います。

委員

講座の情報について、民生委員にも知らせてほしいです。

委員

土曜日に予定があり参加できなかったので、土曜なら午前中など半日にすると参加しやすいです。

副会長

本講座を開催する目的は何ですか。

事務局

子育てボランティアを養成して、子育てひろば等身近な場所で親子が交流し、ほっと出来る場所を増やしていくことが目的です。ステップアップ講座などの企画も考えたいと思います。

会長

「子育てひろば情報交換会」についてお願いします。

事務局

資料5をご覧ください。平成21年12月14日に子育てひろば情報交流会が行われました。

民間の子育てひろば12団体と市関係5団体の計17団体が参加しました。もともと民間の数団体で企画していた交流会に府中市子ども家庭部が「協力」団体のひとつになるという形で開催しました。

当日は、各団体の活動紹介、保育課のひろばの紹介、情報交換などがありました。交流会ではスタッフの不足が共通の課題としてあがっており、参加している母たちに運営の手伝いをお願いしたり、マンション内で子育てが終わった世代の方と顔見知りになって声かけをしたり、チラシをマンション内に配付したり、公園や道ですれ違う親子に声をかけ参加者の増加を図っているなど、スタッフを増やすための工夫の紹介がありました。また、楽器演奏が上手な地域の方に演奏を依頼したり、団子作りなどを婦人会に協力依頼する等地域の老人会や婦人会と連携して世代を超えた交流を意識して活動しているという声もありました。

参加者への連絡方法は、初回参加時に差し支えない程度でメールアドレス等を聞き、定期的にメール等を送っているということでした。また、子育て情報のホームページを作成している団体から、各ひろばのPRにこのホームページを活用して欲しいという話もありました。参加者は市内で多くの子育てひろばが活動していることに感激していました。会場は、半分をおもちゃや本を持ち寄って保育のスペースにし、参加費1人100円を集め飲み物やお菓子を用意して、和やかな雰囲気で行われました。

副会長

今後はどんな形で進めていきますか。

事務局

人と人がつながっていく中で新しい繋がりができ、活動が広がっていくことを期待しています。

委員

講座開催の情報は市民にはどう知らせているのですか。情報は関心がないと入ってこないです。地域の回覧板などでは行き渡らない事もあります。民生委員には地区民協などさまざまな情報交換の機会があるので、情報をもらえれば流します。

会長

地域で世代を超えた繋がりが出来ていると高齢者にとってもありがたいです。府中市次世代育成支援行動計画後期計画の検討委員会でも市民発信での地域作りが話題になっていました。来年度の大きなイベントなど民生委員に情報を入れるといいでしょう。

会長

「病後児保育事業」について、事務局お願いします。

事務局

病後児保育事業は、平成14年6月1日から子ども家庭支援センター「しらとり」でスタートしましたが、利用人数は平成17年の38人をピークに減少し、平成20年度は12人という状況です。今年度から医療機関併設型の病児保育室が市の補助事業として開始され、利用も伸びているので、病後児保育事業は今年度をもって終了します。

委員

病児保育と病後児保育の違いは何ですか。病児保育では医師が保育室に駆けつけてくれますか。

事務局

急性期以外の病児の一時保育が病児保育で、病気回復期であるが保育所等に登所できない児童の一時保育が病後児保育です。病児保育は医療機関に併設されています。現在病児保育室は1か所なので、今後は別の地域にできるといいと思っています。

委員

保育園では、病児保育ではありませんが、病児かどうか判断がつかないときは投薬を含めて預からざるを得ません。このため病後児保育のニーズが減っているのかも知れません。骨折など集団保育が不可能な場合は、病児・病後児保育を紹介しています。

委員

子どもは発熱の予想がつきにくいいため病児と病後児が区別しづらいと聞きます。病児保育は口コミでの広がりもあり、順調に利用者を伸ばしています。平成22年度もニーズを見ながら継続する予定です。

会長

「平成22年度の取組み」についてお願いします。

事務局

22年度は新たな取り組みを含め次の事業を計画しています。

①子育てひろば交流会の定期開催と年1回の交流会主催で市民参加の講演会と交流会の開催、②子育て支援ボランティア養成講座とレベルアップ講座の開催、③児童虐待防止マニュアル改訂版の作成とマニュアルを活用した関係機関への啓発の実施、④安心・安全に子ども家庭支援センターを利用していただくために、現在警備員を土・日・祝に配置していますが、その配置を夏・春休みなど利用が多い時期にも配置する防犯セキュリティの強化、⑤子育て情報の更なる収集・提供のため掲示板を増やすなどの工夫、などです。

会長

質問や、来年度の事業への要望などもどうぞ。

委員

現在の虐待マニュアルは未就学児対象のようですが、就学児と未就学児を分ける予定はありますか。

会長

関係機関で集まって作成しますか。マニュアル作成に関わるプロセスが意識啓発になります。

事務局

以前は未就学児に対応する職員用として作成しましたが、可能な限り関係機関の方のご意見もいただき、対象も拡大して作成したいと考えています。

委員

「たち」での体重・身長測定の実施日時はいつですか。リフレッシュ保育の利用は0歳のニーズは高いと感じますが、1歳からというのは変わらないですか。

事務局

体重・身長測定は水・木・金曜日の午前10～12時と午後2時から6時までです。測定の際に母から質問を受けることが多いため、測定時は看護師や助産師を配置しているので、この日時で行っています。リフレッシュ保育の利用が1歳からというのは変わりません。問い合わせも多く、ニーズは多いと感じますが、1歳児の利用が多いこともあって現状では安全な保育を第一にしたいと考えています。1日4時間という枠では足りないという母親もいて、その際は地域の認可保育所等の一時保育を紹介しています。

委員

一時保育でも0歳児の利用は増えています。場合によっては母と会って話を聞くこともあり、必要に応じて関係機関に繋げるよう心がけています。一時保育では0歳児は分けて保育しています。

会長

フルタイム以外の時間帯の勤務や休職中の母は一時保育の受入れ先がほとんどないようです。

委員

母のリフレッシュという見方に加えて、子の視点で見ることも大切です。保育施設に

勤務していますが、咀嚼やスプーンの持ち方、足腰の弱さなど気になることがあります、母へどう伝えようか悩むことがあります。

会長

昔も一人で子育てををしていたわけではないです。リフレッシュ保育等や幼稚園、学校など家庭で出来ないことを補足しようというのが子育て支援です。大学でも学生に朝食を食べさせるための取組みが話題に上がっています。

(次第4 情報交換)

会長

内容の主旨を事務局からお願いします。

事務局

現在の委員の任期が今年度で終了します。これまで協議会では、子ども家庭支援センター事業の報告とともに、地域で支える子育て支援と子ども家庭支援センターの役割や市内ひろば事業の今後の連携について協議していただきました。ここで全委員さんより今後の子ども家庭支援センターの運営に関してのご意見や、情報提供などをいただきたいと思えます。

副会長

保健所は新型インフルエンザやノロウイルスにひやひやしましたが、現在は相談も減り、インフルの注意報等も解除になりました。発達障害の大人、精神障害と知的障害の重複者への対応や食育など、市民に見えないところで取り組んでいます。2月20日に庁舎建替えのため北府中にある仮庁舎に移転します。5年間の予定です。

委員

園では関係機関と連携しながら心配なご家庭を数世帯見守っています。卒園後は小学校との更なる連携の必要性を感じます。園として地域で何が必要かを考えた結果、月2回出前保育をしています。保育士2人で待ち合わせ場所に行き、保護者と一緒にビニールやダンボールを使用した外遊びをしています。これから地域に向けた活動に努力したいです。

委員

18年度から3年間限定で地域支援班として動いていましたが、今年度も継続しています。来年度からは地域支援担当者を配置して子ども家庭支援センターの援助をすることになりました。

委員

民生委員は何か議題があると月1回6グループが会長会を開きます。年齢層の幅も広い。通報は受けますが、虐待かどうか判断しづらく、児童相談所や子ども家庭支援センター等関係機関に通報することは少ないです。

主任児童員は子どもだけを見ることになっていますが、地域では学校関係などがいろいろありますが、個人情報については守秘義務があって話が出来ない、市の福祉部局に出向いて相談するなど連携をとりながら対応しています。子ども家庭支援センターでの情報をもらえれば、会議で情報発信が出来ます。

委員

ボランティアの養成や育成に協力していきたいです。社会福祉協議会でもひろば開設

の助成事業を行っていて、3月13日（土）子育てグループやこれからボランティアをする団体への助成の説明会があり、助成を受けた団体の紹介があります。PRをお願いしたいです。

会長

選定委員の経験があります。手続きは簡単なのに申込みが少なく、申請する助成額も控えめな印象を受けました。

委員

運営協議会は情報収集に役立ちます。今年度「多摩らんなあ」は対象が妊婦と乳幼児であるためインフルエンザの影響で中止しました。府中市で土屋産婦人科が7月に開設予定で、地域と連携を希望しています。助産師会でも病院や地域と連携を取っていきたいと思っています。

委員

サービスを利用している母の代表として参加しています。様々な制度の存在を実感し、回りの母に伝えています。是政のポップコーンを週1回手伝っています。

委員

親子のもの作りに携わったことがあり、近所ではどんなことをやっているか知りたくて参加した。実際活動すると多忙になるので、自分のペースで動いています。

委員

学童クラブでは現場の指導員が母と信頼関係を築き、子育てや家庭の相談を受けるまになってきているようです。学校からも相談を受けているようで、「たち」との連携の必要性が理解できてきたので、今後は指導員が虐待マニュアルの作成に関与するなど更なる連携を図っていききたいです。

委員

母子家庭の支援を中心に動いています。どなたもそれぞれ課題を持っていますが、子育てに対しては熱心さを感じます。子育てがわからず不安で経済的にも自立できていなくて、自分が子育てすることに自信がない。母の自信のなさからくる子への不適切な対応に対して、関係機関の協力をいただきたいです。出産時から資金に困窮し、飛び込み出産で育児が始まる家庭もあり、母子手帳からのかかわりの重要性を感じます。市役所に話すと自分の行動を批難されると思っている市民も多く、自己肯定力や向上へのモチベーションが低い母を関係機関につなげる困難さを感じます。

委員

女性センターの利用者には、ボランティアや子育てひろばの関係者が多くいらっしゃいます。男女共同参画の旗振りをしていた世代が高齢になり、このような方々に世代交代の時期が来ていますが、うまく女性センターの事業にご協力をいただくことが出来ません。女性センターを利用している子育て中の母親と接していると、母親自身が自分の話に夢中で、子を野放しにし、子から目を離しすぎていると感じます。親の教育プログラムなども必要と感ずることがあります。

また、DVの裏には児童虐待が潜んでいると感じ、日々相談事業で連携をしています。

委員

地域で訪問をしていると、子ども家庭支援センターの活動に感激することがあります。

地域に様々な活動がある中で、保健センターとして、地域での役割を検討し、未熟児や多胎児に声かけをし、小グループを作りました。妊娠中からの虐待予防は保健センターの重要な役割と思っています。両親学級等の事業に参加した母に「たち」を紹介したところ、利用しやすいとの感想を話していました。妊娠中からの支援をもう一歩進めたいです。

委員

平成18年から児童虐待にかかわり、虐待の拠点施設の役割を持つ子ども家庭支援センターの所長も経験しました。本協議会の在り方については、東京都が示しているセンターの役割のうち地域の子育てを支援するというところに重きを置いた運営が果たせるよう腐心した思いがあります。次世代育成支援行動計画後期計画の策定にあたっては、本協議会での委員の発言が大変参考になりました。感謝します。

(次第6 その他)

会長

その他何かありますか。なければ本日の次第は以上です。事務局お願いします。

事務局

2年間委員として貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。さて、大変残念ですが、平成11年から当協議会の会長が、ご公務多忙の為会長を辞されますので、府中市の子ども家庭支援センターや運営協議会に関するご意見・感想や今後の活動に対する期待などについてお話を頂戴したいと思います。

会長

東京都で初の子ども家庭支援センターとして「しらとり」が開設する時、今後は施設内での限られた母だけの支援ではなく、地域での広い子育て支援をしていくので関わりますかと話をもらい、本協議会に参加しました。本日の資料を見て、支援事業が様々動いていることに感慨が深いです。子育てひろば交流会についても、当時「しらとり」の地域交流事業に参加した母たちが地域でグループを作って育つといいねと話し合い、民生委員や保育園関係者と一緒に児童館を使って母への支援をするよう呼びかけました。当時の母たちは、支援してくれれば楽しいという状態で、あちこちで活動グループができるころまではまだという印象でしたが、今年度はひろば交流会も実現したということなので、今後はそこを基盤にして「たち」が応援して大きな枠作りをするころに来ていると思います。次世代育成支援行動計画後期計画策定時のアンケートの時、回答が7割を超えたことに府中市民の子育て政策に対する期待と関心の高さを見守る気持ちの強さを感じました。子育て支援は国の支援策が基調ではありますが、更に市の政策と育っている自主グループとのコラボレーションなどを進めるなど、他市から府中は良いね、と言われるような政策を期待したいです。

事務局

会長には本当に長い間ありがとうございました。これからも府中市や子ども家庭支援センターを応援していただけたらと思っています。

事務局

本日はありがとうございました。みなさんからのご意見をこれからの子ども家庭支援センターの運営に活かしていきます。